



元気に歩いて登校している新一年生を見かけます。その姿はとてもほほえましいものです。学校では、一生懸命に勉強をし、美味しい給食を食べ、休み時間には、グラウンドを走り回ることでしょう。素敵な学校生活を送ってほしいものです。

あなたの子どもさんはどれくらい読書をしておられますか

ベネッセ教育総合研究所が「子どもの読書行動の実態」について調査した結果が公表されました（2023年10月19日）。調査結果から、読書活動の大切さについて考えてみましょう。



## 家庭の影響—保護者自身の文化活動や子どもに対する読書の勧めが重要

読書が多い家庭、自分で能力を高める勉強をしている保護者、本を読む大切さを伝えている保護者の子どもほど、読書時間が長い傾向があります。家庭の文化的な背景が子どもの読書行動に影響しているためだと考えられ、保護者自身も家庭の中で読書に親しんだり、子どもに読書を勧めたりすることが重要だと言えそうです。実際に、小学校入学前に保護者から読み聞かせをしてもらった子どもは、その後の読書時間が長いことがわかりました。読書時間が長い子どもは、その後も継続して読書を多くする傾向があるため、できるだけ早期に（今すぐに）、読書習慣を身につける支援ができるとういと思います。

## 読書の効果—成績、各種の経験、得意、関心、将来の目標などと相関あり

中学生までは、読書時間が長い子どもは、成績上位層が多く、文化体験や調べる活動を多く行うなど様々な体験をしています。また、自分の能力に対する認知では、理解や思考、表現などが得意だと評価し、自分に対して自信を持っています。ここに示した読書行動と望ましい特性の関係は、あくまで相関であり、読書行動の効果とは断定できませんが関連があることは明らかです。今後、読書の効果に関する因果関係についての検証が必要になります。

「子どもの読書行動の実態—調査結果からわかること—」

読書の重要性については、みなさんよくご存じのことでしょう。

“蔵書の多い家庭の子は読書時間が長い”と記載されていますが、家の中に本が多いと読む時間が多くなることは当然でしょう。でも、本を買う経済的な余裕がない、買いに行く時間がないという家庭もあることでしょう。その場合には、図書館（図書室）を利用してはどうでしょうか。学校の図書室、県立・市立の図書館、公民館（書架を置いているところもあります）など、身近なところにもたくさん本が置いてあります。そこには、家に置いてあるよりもずっと多くの本が置いてあり、そして無料です。これを利用しない手はありません。小学校6年間で学校の図書室の本はすべて読んだという兵（つわもの）がいたということを知ったことがあります。すごいですよね。

また、“親が読書に親しんでいる姿を見せること”、“読み聞かせをすること”などが子どもの読書活動に良い影響があることが記載されています。「本を読むように」と勧めるよりも、親自身が本を楽しそうに読んでいる姿を見せることが子どもの読書活動に良い影響を及ぼすのでしょうか。まさに、“背中教育”です。